




三重短期大学附属図書館 



詩のじかん  
Shi no Jikan

February - March 2024

こんな本



読んでみて

No. 105

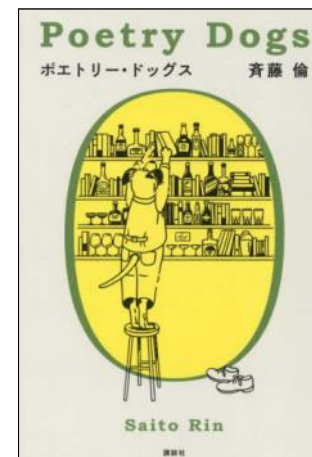
## 目次

詩のじかん	1
MIETAN 本つなぎ 第13回	6
Book design の世界 vol.35	10
ちょこちょこ日記 #45	12

# 詩のじかん

Shino Jikan

「し、を、お、出、し、て、い、る、の、す、す」



「し、を、お、出、し、て、い、る、の、す、す」

## 『ポエトリー・ドッグス』

著者／斉藤倫

出版社／講談社

出版年／2022年

請求記号／902.111Sa 25

カウンターのむこうには、いぬのバーテンダー。そこは詩が出てくるバーなのです。詩人・斉藤倫さんがおくる、31篇の詩をめぐるストーリー。詩の味わいをじっくりと楽しむことができます。

# 詩のじかん

Shi no Jikan



## 『最初の質問』

著者／長田弘詩，いせひでこ 絵

出版社／講談社

出版年／2013年

請求記号／726.6110 72

長田弘さんの詩を、いせひでこさんの絵が彩る美しい絵本です。1ページ1ページを大切にめくりたくなる、特別な贈り物のような一冊です。静かに語りかけられる質問にあなたはどんな風に答えますか？

今日、あなたは空を見上げましたか。  
空は遠かったですか、近かったですか。



## 『さよならのあとで』

著者／ヘンリー・スコット・ホランド詩，高橋和枝 絵

出版社／夏葉社

出版年／2012年

請求記号／931.711H 83

この世を去った「私」が語りかける42行の詩に、高橋和枝さんのやさしさとあたたかさの感じられるイラストが添えられています。深い悲しみにそっと寄り添うような一冊です。

私は今でも私のまま  
あなたはいまでもあなたのまま。

# 詩のじかん

Shi no Jikan



## 『ここに素敵なものがある』

著者／リチャード・ブローティガン

訳者／中上哲夫

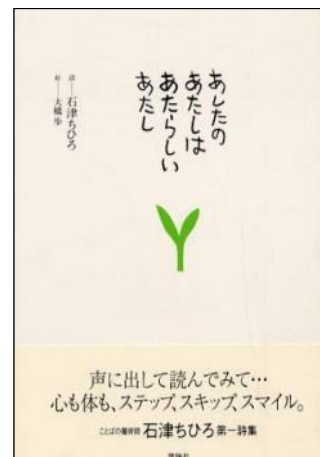
出版社／百万年書房

出版年／2023年

請求記号／931.711B 71

アメリカの詩人、リチャード・ブローティガンの詩集です。訳者によるあとがきを読んでからもう一度詩を読むと印象が変わるかもしれません。短い詩も多く、詩のおもしろさや奥深さに触れることができる一冊です。

経験というものにどんな価値があるのかはだれにもわからない



## 『あしたのあたしはあたらしいあたし』

著者／石津ちひろ 詩、大橋歩 絵

出版社／理論社

出版年／2002年

請求記号／911.56111 84

石津ちひろさんの第一詩集。軽やかな大橋歩さんの絵が添えられています。リズムカルな言葉を眺めていると、声に出して読みたくなってきます。明るく楽しい気持ちになれる一冊です。

はるらんまんの  
はるのひに  
はひふへほっぽと  
わらったら  
さくらがひらひら  
まいおちる

三重短生の  
おすすめ本をリレーして  
三重短を  
本でつなげたい！

第 13 回



もくたんさん  
居住環境コース  
1年

みずきさん  
居住環境コース  
1年

ー今日はよろしくお願ひします。まず、みずきさんのおすすめの本を教えてください。

**みずき** 私のおすすめの本は、『かがみの孤城』（辻村深月著／ポプラ社／2017年）です。この本を初めて読んだのは、中学2年か3年ぐらいです。この本は、不登校の中学生が主人公なんですけど、当時の私も不登校だったので、自分と重ね合わせてじゃないですけど、話の内容に救われていたところがありました。

ー好きなシーンはありますか？

**みずき** ネットバレになってしまうんですけど、最後あたりのどんでん返しというか、伏線の回収がすごくて。一見、全然関係がなさそうに見えた7人の中学生が、実はいろんなところでつながりあっているんです。助けあって、つながりあって、というところに温かさを感じました。同じ時間を生きていなくても、ちゃんと助け合うことはできるんだよって。重い話ではあるんですけど、ちゃんと最後は温かい気持ちになれるような終わり方をするので、ぜひ読んでいただければと思います。7人の中学生のうち1人の女の子がピンチになるんですけど、残った6人が助け合って、その女の子を救い出すっていうシーンがとても印象的です。自分が不登校を経験していたので、主人公のつらい思いに感情移入して読んで、結構泣きながら読んでいたところがありましたね。

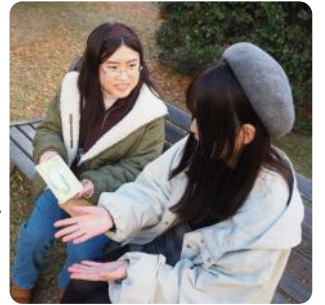


ー続いて、もくたんさんのおすすめの本のお話を聞かせてください。

**もくたん** 私のおすすめの本は、『西の魔女が死んだ』（梨木香歩著／新潮社／2001年）です。最初、主人公のまいが中学3年生の時に、祖母が亡くなってしまふシーンから始まって、それから2年前を回想する感じで物語は進んでいきます。この本も、不登校の中学生が主人公なんです。中学1年生のまいが、5月から初夏にかけて、祖母の家で暮らすことになります。自分の意思で決めていけるようにという、魔女の修行を通して、まいが成長していくお話になっています。私も中学生ぐらいに読んだと思います。

ー印象に残っているシーンはありますか？

**もくたん** 昔、まいが死についてお父さんに聞いたら、「死んだら、もう何もわからなくなって自分というものもなくなるんだ」と言われたのを、まいはずっと引きずって、死を恐れていて。おばあさんと暮らしていく中で、そういった悩みを打ち明けていきます。おばあさんは、「人には魂っていうものがあると思っています。人は身体と魂が合わさってできています」と言っていて、もし、おばあさん自身が亡くなった時は、魂が身体から離れたという証拠を見せてくれるという会話をするんです。おばあさんとの生活の最後あたりに、ある事件が起こって、おばあさんとまいはわだかまりが全然溶けない状態のまま、まいはお父さんとお母さんと一緒に遠い町に行ってしまうんですけど、その後、会えないままおばあさんは亡くなってしまふんですが、おばあさんのこの証拠のおかげでまいの心が救われた感じがします。おばあさんとの生活の後、引っ越してから、まいの学校生活は充実していて、おばあさんが言っていた、自分のことは自分の意思で決めるっていう習慣を大事にして過ごしていたので、それがまいの成長につながったのかなと思います。



ーお二人のおすすめの本は、テーマがつながっているように感じますね。

**みずき** 二人でテーマを決めていたわけじゃないんですけど、ここまで重なるところがあるんだって思って、ちょっとびっくりしました。

**もくたん** 中学生の時の状況も似ていました。私は、中2の冬休み明けぐらいに、週に2回ぐらいしか学校行けなかった時があつて、すごい孤独だなんて思って、クラスのあの席に座るのがつらかった。今、短大生になってからは、1人も楽しめるし、みんなとも関われるから、すごくいい環境だなんて思います。

**みずき** 不登校克服の助けの一つに本があつたんだなという感じはありますね。

ー今日は大切な本を紹介してくださって、ありがとうございます。

—いつも読む本はどうやって選びますか？

**みずき** そうですね。本当に小学生の頃はめちゃくちゃ読んでいて、今はあまり読まなくなりましたが、図書館の特設のコーナーで表紙を見て面白そうだなって思った本を読んだりします。本屋大賞でノミネートされた本を読むこともありますね。あとは、私の父は国語の先生なので、父からおすすめされた本を読んだりします。父がおすすめしてくれた本はどれも面白かったので、親子だから波長が合うんだろうなと思います。

**もくとん** 私は、読み切れるぐらいの薄さの本を選んでいきます。あと、短編集のような読み切り型の作品も読んでいます。この前は、織田作之助の短編集を読んでいました。

### 本つなぎ 3つの質問

—3つの質問のコーナーです。①今、はまっているものを教えてください。



**みずき** 私が今ははまっているものは、海外ドラマです。最近だと、「グッド・オーメンズ」っていう海外ドラマが好きなんです。「グッド・オーメンズ」は、天使と悪魔が現代に降りてきて、色々な事件に巻き込まれていく感じの話です。それが本当に好きで、最近シーズン2が出たので見始めました。ちょっとプロマンスみたいな感じです。あと、シャーロック・ホームズを現代版にした、「シャーロック」っていうドラマも面白いです。

—もくとんさんのはまっているものは何ですか？

**もくとん** はい。私は動画鑑賞です。いろんなジャンルの動画を見てるんですけど、好きなアイドルの動画とか見ています。NewJeansっていうグループが、最近、ガムのCMに出ていて、身近に感じられるようになって、すごい幸せを感じてるんですよ。あと、好きなミュージックビデオとかも見ています。TVアニメ「呪術廻戦」の「廻廻奇譚」っていう曲を歌っている、Eveさんのミュージックビデオの世界観に中学2年生の冬ぐらいからはまり始めて、それから最新曲が出たら見えています。

**みずき** Eveさんはいいよね。わかる。「アウトサイダー」とか好きです。

—前回のかえるさんからの質問です。②将来の夢は何ですか？

**みずき** 将来の夢というか、目標になっちゃったんですけど、今は大学編入を頑張っていきたいなという所存です。もう入試まで1年切りましたから。いろんな大学を調べたりして、情報を集めています。

**もくとん** 私の将来の夢は、家族旅行に行くことです。私が修学旅行で行った、岡山県倉敷市の美観地区に行ってみたいなと思います。美観地区には、倉敷がデニムの生産地というのもあって、デニムを売っている一角があったり、桃の名産地でもあるので、くらしき桃子っていうカフェがあって、母がフルーツ大好きなので、そこへ連れて行ってみたいなと思います。町並みもすごくきれいでよかったですし、美術館にも行ったりして、楽しかったです。

—③2024年にしたいことは何ですか？おにぎりさんからの質問です。

**みずき** ズバリ、三重県の観光地に全部行くことです。

—出身地はどこですか？

**みずき** 鹿児島です。三重県にいるうちは、三重県を堪能しなければという気持ちです。とりあえず、伊勢神宮、なばなの里やスペイン村に行きたいですね。鳥羽水族館には行ってきました。アシカのショーが面白かったです。建物が広くて、1日いても飽きませんでした。楽しかったです。

**もくとん** 私は2024年にマイクロソフトオフィススペシャリストの資格を取りたいです。Wordから挑戦しようと思っていて、今、勉強しているんですけど、学業と部活との両立があるので、それは大変だなと思いながらやっています。

—今日はお二人の話がつながる場面が何度もありましたね。たくさんのお話をありがとうございました。

今回の  
本つなぎ

●みずきさん●

『かがみの孤城』

(辻村深月著/ポプラ社/2017年/913.6||Ts 44)

●もくとんさん●

『西の魔女が死んだ』

(梨木香歩著/新潮社/2001年/913.6||N 55)

どちらの本も図書館にあります。ぜひ読んでみてください。

13



次の2人へ  
本つなぎ。  
次回もお楽しみに♪

# Book design

## の世界

vol.35

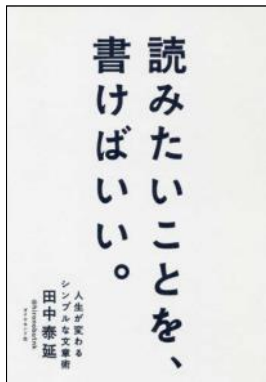
杉山 健太郎 さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

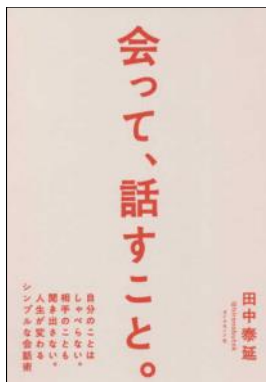
本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第35回目は、杉山健太郎さんです。

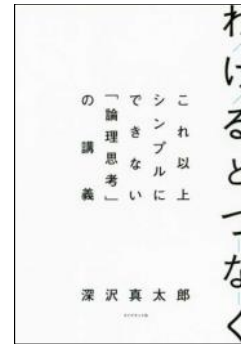
今回は、杉山健太郎さんの装丁をご紹介します。「Book designの世界 vol.13」でご紹介した寄藤文平さんのデザイン事務所・文平銀座を経て、2016年からフリーランスで活動されています。



はじめにご紹介するのはこちらの二冊です。  
**『読みたいことを、書けばいい。人生が変わるシンプルな文章術』** (田中泰延著／ダイヤモンド社／2019年／816||Ta 84) は、自分に向けて書く文章術の本です。**『会って、話すこと。自分のことはしゃべらない。相手のことも聞き出さない。人生が変わるシンプルな会話術』** (田中泰延著／ダイヤモンド社／2021年／809.2||Ta 84) は、会って話すことが楽しくなる会話術の本です。どちらも表紙に文字がシンプルに配置されたデザインです。表紙をめくると現れる見返し紙と標題紙には、それぞれの表紙の文字と同じ紺色、オレンジ色の用紙が使われています。標題紙には、タイトル・サブタイトル・著者名が同じ大きさの文字で書かれていて、本文への期待が高まります。洗練されたフォントやレイアウトによって、サブタイトル中の「シンプル」であることの魅力が伝わってきます。



ブックデザイン：杉山健太郎



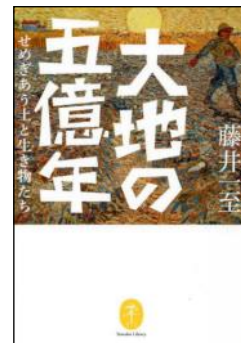
ブックデザイン：杉山健太郎

**『わけるとつなぐ これ以上シンプルにできない「論理思考」の講義』** (深沢真太郎著／ダイヤモンド社／2020年／336.2||F 72) は、女子高の弱小サッカーチームのストーリーを通して論理思考がわかる一冊です。表紙のタイトル文字の間に、記号の／と|が配置されています。表紙には右端、標題紙には左端という絶妙なバランスでタイトルが配置され、タイトルのインパクトが残るデザインです。



装丁：杉山健太郎

**『リサーチのはじめかた「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』** (トーマス・S・マラニー、クリストファー・レア著／安原和見訳／筑摩書房／2023年／002.7||Mu 29) は、どのように研究をはじめたらいいのかを教えてくれる一冊です。□と○の図形とタイトルの文字との組み合わせや、黄色と緑色のポップな印象で、本のメッセージと響きあうようなデザインになっています。



デザイン：杉山健太郎  
カバー画：ゴッホ「種まく人」

最後にご紹介する**『大地の五億年 せめぎあう土と生き物たち』** (藤井一至著／山と溪谷社／2022年／613.5||F 57) は、土と生き物たちの歩みを追った壮大なドキュメンタリーです。まえがきで触れられているゴッホの「種まく人」が使われた表紙に、インパクトのある文字でタイトルが配置されています。大地の力強さや豊かさが感じられるようなデザインです。

今回ご紹介した杉山健太郎さんの装丁は、文字の持つ奥深い魅力が最大限に活かされたシンプルで美しいデザインばかりでした。

Book design の世界 次回もお楽しみに！

参考：杉山健太郎ホームページ <https://sugiyamakentaro.com/>

## ちょこちょこ日記 #45 「どんな色がすき？」

三重短生のおすすめ本紹介コーナー「MIETAN本つながり」のインタビューの時、本の話にプラスして好きな色も聞いています。好きな色を、その方のお名前の色などに使わせてもらっているのです。今回登場のみずきさんは青緑、もくたんさんはミントグリーンが好きとのことでした。どちらも緑系の色ですが、色のイメージが違っておもしろいです。

そんな色のおもしろさを味わえる本が図書館にあります。

### ● 「色の辞典」

(新井美樹著／雷鳥社／2018年／757.3||A 62)

367色の色名の由来や色合いの魅力が楽しめる、手のひらサイズのビジュアルブック。



### ● 「3色だけでセンスのいい色」

(ingectar-e著／インプレス／2020年／757.3||I 54)

センスよくおしゃれに仕上がる3色の配色アイデアを紹介する一冊。



### ● 「配色アイデア手帖」

(桜井輝子著／SBクリエイティブ／2017年／757.3||Sa 47)

幅広いテーマに沿った配色アイデアからイメージにぴったりの色が見つかる一冊。



ぜひ手に取ってみてください。

次号 No.106 は、2024年4月発行予定です。

こんな本読んでみて No.105

2024年2月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>